

かほく

ワークシート

問題

- ①池田樹生さんと子どもたちとの「心の距離が縮まった」理由を、池田さんはどのように考えていますか。
- ②池田さんは東京パラリンピックで何の競技の代表を目指していますか。
- ③トレーニングに励み授業を行う池田さんは、どのような人だと思いますか。

(中学生／朝の会前の10～15分)

出題者から

子どもたちは障害のある人について、ともしれば「かわいそう」と思ってしまいます。実際はそんなことはありません。健常者も障害者も互いに理解し合い、不便なところは助け合いながら共に生きていける社会ができればと思います。

(日本新聞協会NIEアドバイザー・仙台市高森中教諭 木下晴子)

義足を外し、脚の先を小刻みに動かす。「触ってごらん」。促された子どもたちが恐る恐る手を伸ばす。「ぶにぶにした感触」「ジユゴンの顔みたい」。無邪気な感想が漏れた。

宮城県南三陸町の志津川小で18日にあった体験授業。5年生30人の先生役を務めたのは、手足に先天性の障害がある池田樹生さん(22)＝東京＝だった。義足の陸上選手として2020年東京パラリンピック出場を目指している。

幼い頃に右膝から下を切断し、物心がついた時は義足だったという池田さん。義足を使う人が身近にいる子どもは限られる。「驚かれたり怖がられたりすると思っていました。素直に障害と向き合ってくれたので心の距離が縮まった」と

義足の陸上選手 小学校で体験授業



義足を外し、児童に脚を見せる池田さん

振り返った。

東京パラでは100メートル走り幅跳びの代表を目指してトレーニングに励む。目的は個人の記録や成績のためだけではない。「パラスポーツを通じて障害者のイメージを変えたい」。授業後は優しい先生からアスリートの顔に戻っていた。

(南三陸支局・佐々木智也)

ほとタイムありのまま障害語る

1 2月8日こども新聞7面かほくワークシート模範解答

- ① 池田樹生さんと子どもたちとの「心の距離が縮まった」理由を、池田さんはどのように考えていますか。

小学生が素直に障害と向き合ってくれたから

- ② 池田さんは、東京パラリンピックで、何の競技の代表を目指しているのですか。

100メートル走と走り幅跳び

- ③ トレーニングに励み、授業を行う池田さんは、どのような人だと思いますか。

模範解答なし